

## 試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：サツマイモ「ベニアズマ」ウイルスフリー新配付系統の特性			
〔要約〕 「ベニアズマ」ウイルスフリー新配付系統「I-3」は、これまでの配付系統に比べ、曲がり等の障害の発生が少なく、いもの形状及び揃いが良い。			
キーワード	サツマイモ、ベニアズマ、ウイルスフリー、系統選抜		
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・育種研究所・畑作物育種研究室 協力機関 北総園芸研究所・畑作園芸研究室		
実施期間	2006年度～2008年度		

### 〔目的及び背景〕

サツマイモでは帯状粗皮症を回避し、収量及び品質の向上を図るためにウイルスフリー苗の利用が普及しており、農林総合研究センターがウイルスフリーの元株(基核株)の育成・更新及び苗の増殖・配付を行っている。

基核株は変異の発生等により、しだいに特性が劣化していくことが経験的に知られている。そこで、5年を目安に更新することとし、優良系統の選抜に取り組む。

### 〔成果内容〕

「ベニアズマ」について優良な基核株を育成し、本年度から配付系統とする。

#### 1 育成経過

平成17年度に、成田市の生産者圃場で当時の配付系統「No. 92」の中から、いもの形状及び揃いが良い株を個体選抜し、18年度にかけて茎頂培養によりウイルスフリー化した。19年度に20系統を供試して系統選抜試験を行い、「I-3」を選抜した。さらに、20年度に「No. 92」との比較試験を行い、特性が優れていることを確認した。

#### 2 系統の特性

「I-3」の基本的な形質は「No. 92」と同様であるが、「No. 92」に比べ、次のような特徴を持っている。

- (1) 「ベニアズマ」に多い曲がり等、障害の発生が少ない(表、写真1、写真2)。
- (2) 販売単価が高いM・L級のいもの割合は同程度である(表)。
- (3) いもの形状及び揃いが良い(写真1、写真2)。
- (4) 収量はa当たり216～357kgで、「No. 92」よりやや少ない(表)。

### 〔留意事項〕

「I-3」はJA全農ちばから、「全農系40」として販売される予定である。

### 〔普及対象地域〕

県下サツマイモ栽培地帯

### 〔行政上の措置〕

[普及状況]

「I-3」は、平成21年度からJA全農ちばに配付を開始した。21年度の配付数量は2,800鉢で、「ベニアズマ」全体の90%を占める。

[成果の概要]

表 「ベニアズマ」ウイルスフリー新配付系統の特性（平成20年）

圃場	系統番号	a 当たり		株当り	株当り	M・Lの	平均	同左	長さ	最大径	長径比	障害等の発生状況					圃場	
		収量	割合									重	重	個数	1個重	割合		丸
		(kg)	(%)	(g)	(個)	(%)	(g)	(%)	(cm)	(cm)		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
A農家	I-3	319	87	1,150	4.5	44	256	87	21.3	4.9	4.4	2	2	7	4	0	9	0.38
	対)No.92	366	100	1,320	4.5	51	293	100	19.6	5.2	3.8	4	16	4	0	0	0	
B農家	I-3	216	78	1,050	3.2	47	328	107	18.7	5.6	3.3	9	0	13	3	0	0	0.18
	対)No.92	278	100	1,350	4.4	41	307	100	18.1	5.4	3.3	7	9	0	7	0	0	
C農家	I-3	357	81	1,500	4.1	51	366	91	21.3	5.5	3.9	0	7	2	5	0	0	0.85
	対)No.92	440	100	1,850	4.6	28	402	100	19.4	5.8	3.4	17	4	0	7	0	0	

注 1) 植付け：A農家5月30日、B農家、C農家5月28日。収穫10月9日。 2) 1区10株の反復なし。  
 3) 50g以上のいもを調査。 4) 「圃場評価」は、生産者、JA、普及、試験研究担当者14名が、いもの肥大や形状、揃い等が対照より優れている1点、対照と同等0点、対照より劣る-1点で評価した平均。



写真1 選抜系統いもの形状



写真2 旧配付系統いもの形状

(最上段が2L以上、2・3段目がM・L、4・5段目がS以下のいも。)

[発表及び関連文献]

平成21年度試験研究成果発表会（野菜部門3）

[その他]

平成19年度試験研究要望課題（提起機関：JA全農ちば）